

北門馬出し跡

東門馬出しから片端の通りを、左手に片端の堀をみながら北上すると堀が切れ、西へ道が曲がりま
す。そのあたりに、北門と馬出しがありました。

北門馬出し

現在地は丸の内 8・9 番と北深志 1 丁目 2・3 番のあたりの地籍で、堀の一部と堀跡が残り、堀
の周囲にあった道形を今にとどめています。

北門馬出しは、東門馬出しに次ぐ規模を持っています。門は櫓門やぐらで 3 間（約 5.4 メートル）
× 6 間の規模、門の内側に 6 間程度の広場があり、そこに、水野時代には 2 間 × 1 間半の番所と、
2 間 × 4 間の「掃除ノ者居所」がありました（『信府統記』）。門の北は土橋で長さ 16 間幅 3 間で
した。この橋の幅は東門に比べると 3 間ほど細くなっています。



その先にある馬出し部分は約 350 坪の広
さで、その先に土が盛られ北側に堀がありまし
た。出入口は東西にあり、通路は馬出し内を
屈曲して外へ通じていました。馬出しの北は
田町・新町たまち しんまちで、いずれも武家地でした。西は
北馬場きたばばに通じ、東は新町の南端から東に通ずる
道がありました。享保期の絵図には、新町へ出
るところにも番所が描かれています。新町から
東町へ通じる道が上馬出しと呼ばれる通りで
す。

北門と馬出しの様子（「享保十三年秋改松本城下絵図より」）



北門があったあたり

この門は、城下の北部に居住した藩士が藩庁へ出勤する時に通用する門で、町人・農民の通行は
できませんでした。

幕末の 1854（嘉永 7）年に、こんな出来事があったことが記録されています（「近藤家文書」）。
男が北門前に来て通行したいと申し込んだ。番人が「通行はできない」と言ってその男をみるとか



上馬出しの通り

なり酩酊している様子であった。男を取り調べると近隣にある他領の村の農民であることがわかった。藩の目付はその村を支配している代官所へ書状を送り、本人かどうか確認の上引き取るように依頼した。代官所では早速該当の村役人に確認させ、身柄の引き取りに行かせた。そして帰村した男を罰した。



井戸と北門馬出しの説明版

なって北馬場の松本市職員駐車場の向へ伸びていて、堀跡の名残をとどめています。職員駐車場の南には、堀の土塁の跡も一部残っています。

大井戸の南東にある木曾御嶽本教松本唯一教会本部あたりは、隅櫓すみやぐらがあった位置です。

馬出し部分とその前面にあった堀は、削られたり埋められたりして姿をとどめていません。また、柳町から北上する道が馬だしの中央を突き抜ける形であけられています。変化はしていますが、馬出しの堀の周囲をめぐっていた道はそのまま残っていますので、馬出し部分の堀の規模を知ることができます。



北門と馬出し

(松本市立博物館展示の城下の模型より)

現在は、片端の堀には水があり、それが西に曲がった部分は埋められていますが、堀跡としてその姿を明瞭に残しています。現在そこに「北門の大井戸おおいど」があります。堀が埋められた後、明治になって設けられた井戸ですが、豊かな水がこんこんと湧き出ています。地域の人たちからは「大井戸」と呼ばれ、親しまれています。

北門の西側の堀は埋め立てられて水はあり大ませんし人家も建っています。けれども窪地と

4つあった松本城の馬出しは、現在大きくその地形をかえてしまっていますが、北門馬出しのこの場所は、現在の地形に馬出しの堀の規模を実感することができる唯一の場所です。

近所のおそばやさんが「北門」の表示を掲げています。

門や馬出しの様子を具体的にイメージするには、松本市立博物館に展示されている松本城下の模型を見るのがよいでしょう。この模型は1911（明治44）年に当時の開智学校の先生が中心になって、古老から聞き取ったことをもとに製作したものです。